



まもなく1学期の終業式、夏休みを迎えます。長い夏休みの間に、子どもたちには、新しい発見や感動に満ちた時間を過ごしてほしいと思っています。2学期には、さらに成長したまみっ子に会えるのを、職員一同、楽しみにしております。

あらためまして、保護者のみなさま、地域のみなさまにおかれましては、この1学期にも、本校教育の推進に多大なるお力添えをいただきました。本当にありがとうございます。今後とも、よろしくお願いいたします。

田植え体験学習をさせていただきました

先月、5年生の子どもたちが、社会科や総合的な学習の一環として「田植え」の体験をさせていただきました。地域の方のご協力で、田んぼを貸していただくだけではなく、指導もしていただくことができました。

子どもたちにとって、普段食べているお米がどのように作られているのかを肌で感じる貴重な機会となったのではないかと思います。田んぼに足を踏み入れた瞬間、子どもたちからは「うわーっ。」「気持ちいい。」「足、抜けへんわ。」などと声があがり、最初は慣れない泥の感触にとまどいながらも、腰をかがめて一つひとつ丁寧に苗を植える真剣な表情を見せてくれました。

今回の田植え体験は、食の大切さや、食べ物を作る人々の苦勞を知る生きた学びの場となりました。自分たちで植えた苗が、秋にはたくさんのお米となって実ることを楽しみにしてほしいと思います。稲刈り体験も予定しており、収穫したお米は、家庭科の調理実習で味わうことにしています。

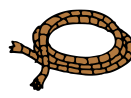


水難事故から命を守る～着衣水泳～

7月3日(木)、4日(金)に6年生が「着衣水泳」の学習を行いました。香芝市の危機管理監が講師を務めてくださり、専門的な立場から「命を守る行動」について教えてもらいました。あいにく、3日(木)は天候の都合で、座学となったのですが、翌4日(金)の1時間目に実技での学習をすることができました。

水難事故は、水着姿ではなく、普段着のときに発生することがあります。着衣水泳では、服を着たまま水に落ちてしまったときの動きにくさ・体の重さ・水の抵抗などを体験すること、また、無理に泳ぐのではなく、仰向けになって体力を温存しながら救助を待つための技術を学びます。ご家庭で用意していただいたペットボトルをはじめ、ボールやバケツなど身近なものが、浮力補助具として活用できることも体感することができました。

何よりも肝心なのは、「川や池・用水路などの水辺の危険性」をしっかりと認識することです。まもなく夏休みを迎えるにあたり、学校においても子どもたちに注意喚起をいたします。ご家庭におかれましても、安全な過ごし方についてお話しいただければと思います。



～児童のみなさんへのお話（要約）～



今日は「ものを大切にすることは、人を大切にすること」というお話です。みんなと一緒に考えてみたいと思います。みなさんは、お家や学校で使っている鉛筆やノート、おもちゃや服など、いろいろなものを持っていますね。それらのものを、大切に使っていますか。たとえば鉛筆。短くなったらすぐに捨ててしまうのではなく、キャップをつけて最後まで使うとか、折れないようにていねいに扱うとか、いろいろありますね。ものには「気持ち」がこもっていると、校長先生は思っています。みんなが使っているものは、誰かが一生懸命作ってくれたものです。ものを大切に使うということは、それを作ってくれた人の気持ちや努力を大切にすることです。また、ものには「いろいろな思い出」がこもっていると思います。みんなの周りのものにも、たくさんの思い出が詰まっているはず。ものを大切に使うということは、そのものにこもっている大切な思い出や、それをくれた人の愛情を大切にすることです。ものをていねいに使うことで、ものを大切にすることが育ちます。そうすると、次に自然と、まわりの友だちや家族、先生など、人のことも大切にしようという気持ちが生まれてきます。ものを大切にできる人は、きっと困っている友だちに優しくできたり、先生のお話をしっかり聞けたり、家族に感謝の気持ちを伝えられたりすると、校長先生は思います。